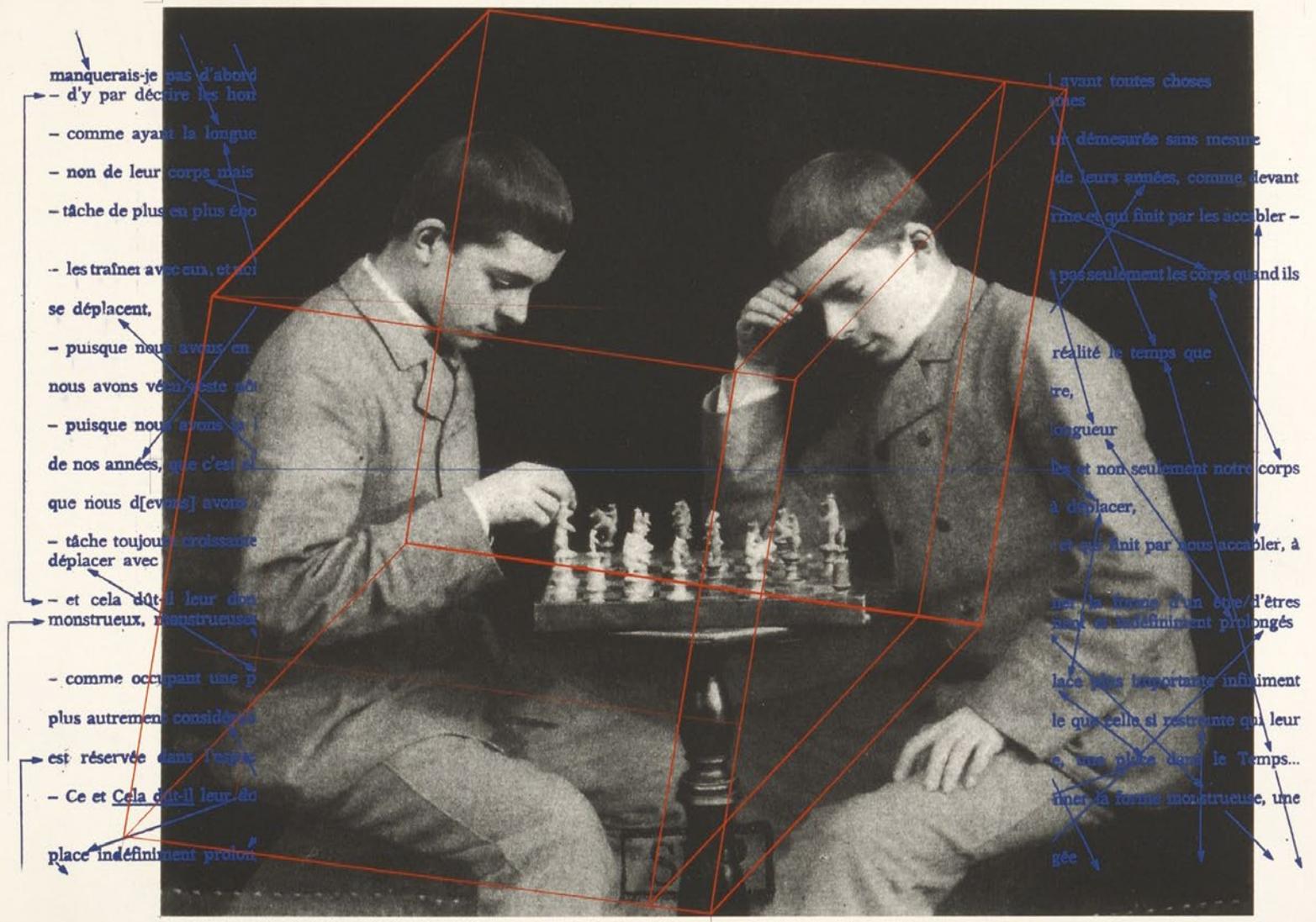


contents

〈展覧会紹介〉「イメージWORKS」	[2~3]
〈イベント報告〉「今、あなたにつたえたい ミリオンセラーロングセラーの絵本たち」	[4~5]
「みくに龍翔館 特別展示」	[5]
「おしゃべりな絵」 「秋～初秋から晩秋まで～」	[6]
「土岡秀太郎 福井のアートを拓いた男」	[7]
「新春展 動物コレクション」	[7]
「奇才！風刺画家オノレ・ドーミエ」 「みんなの暮らし～人々の姿や風景から～」	[8]
令和5年度 福井県立美術館ボランティア 新規会員募集	
次回展覧会のお知らせ	
美術館喫茶室二ホ特別メニューのお知らせ	
令和5年度 実技講座受講生の募集のお知らせ	
休館日のお知らせ	

表紙：北川健次《記憶の構図ーマルセル・ブルースト領》2004年 「イメージWORKS」 出品作品より



イメージ WORKS

映像の 実験室

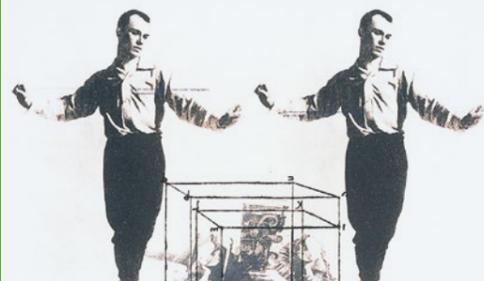
北川健次
久里洋二
土田ヒロミ
ナム・ジュン・パイク
森山大道
山本圭吾
他

2023
2.24(金)▶▶
3.26(日)



北川健次
《位相—封印された人物》2006年(部分)

北川健次《Nizinskii または歩行の原理》1995年(部分)



〔開館時間〕 午前9時～午後5時入館は午後4時30分まで 〔休館日〕 月曜日休館 〔主催〕 福井県立美術館
〔料金〕 一般・大学生100円(20名以上の団体は2割引) ※高校生以下、70歳以上、障がい者手帳をお持ちの方とその介助者は無料。

関連イベント

◎ **スペシャル対談** ※観覧券不要、申込み不要(先着40名)
「ナム・ジュン・パイクと福井」
黒原繁夫(アートディレクター)×野田訓生(福井県立美術館 副館長)
3月19日(日)午後2時～
会場/講堂

◎ **学芸員によるギャラリートーク** ※観覧券必要、申込み不要
①3月5日(日) ②3月11日(土) 各日ともに午後2時～
会場/第1、2展示室

◎ **学芸員トークサロン** ※観覧券不要、申込み必要、参加無料(先着10名)
3月12日(日) 午後6時～7時
会場/美術館喫茶室ニホ
会費/無料(お飲み物をご注文ください)
申込/福井県文化課(Tel:0776-20-0580, E-mail:bunka@pref.fukui.lg.jp)
または美術館喫茶室ニホ(Tel:0776-43-0310)

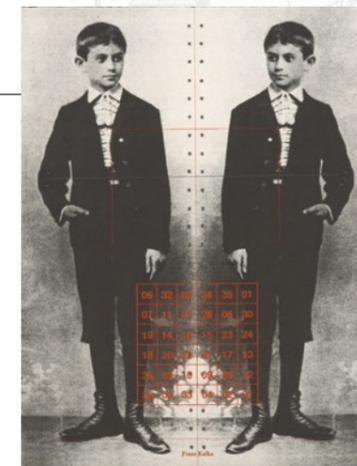
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場制限をする場合があります。
※事前に美術館ホームページ等でご確認をお願いします。
※入館時に手指消毒、検温にご協力いただきますようお願いいたします。

福井県立美術館コレクションの中から、写真や映画、ビデオなどの映像を用いた斬新な作品を特集します。世界的なメディアアーティスト、ナム・ジュン・パイクが福井を訪れて制作した作品《メイド・イン・永平寺》は、福井に残された貴重な関連資料も合わせて紹介。光学やカメラ、写真などの原理を研究する実験室に見立てた会場の中で、アーティストたちが創意を凝らした映像表現との出会いをお楽しみください。

北川健次

北川健次は、福井市生まれの版画家、オブジェ作家。多摩美術大学在学中に駒井哲郎に銅版画を学ぶ。写真製版による銅版画の技法を開拓し注目され、棟方志功、池田満寿夫らの大きな支持を得る。写真や文字、記号等で構成された硬質なイメージは、短編小説のような強い物語性と文学性をもし出す。1980年代からは、箱状の空間の中に写真や様々な物体を緻密に配して重層的で濃密なイメージを生み出すオブジェ作品へと展開。美術のみならず、文学にも深い関心を寄せながら意欲的な制作を続けている。

《肖像考—フランツ・カフカ》2004年



土田ヒロミ



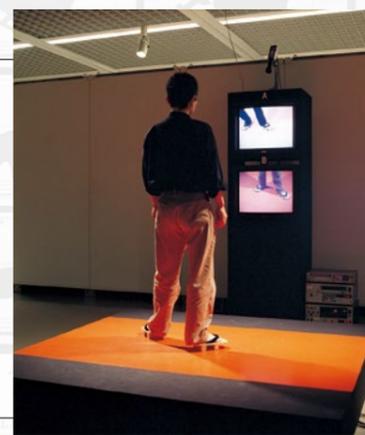
土田ヒロミは、福井県南越前町(旧今庄町)出身の写真家。1960年代末から、土俗的な文化、ヒロシマ、高度経済成長、バブル経済などのテーマにより、変貌する日本の姿を撮り続けている。「新・砂を数える」シリーズは、バブル経済が一挙に崩壊していくなか、バーチャル化する時代の様相を考察する。人々がひとつのベクトル方向に動かず、互いに距離を取り合う姿は、日本人の「群衆」が予測不能なかたちに変質していることを浮かび上がらせる。デジタル加工技術も積極的に取り入れ、Fake化する時代にふさわしい写真イメージを探求している。

《新・砂を数える「横浜」》1997年

ナム・ジュン・パイク

ビデオ(メディア)アートのパイオニアとして知られるパイクは、1986年福井を訪れ、本作《メイド・イン・永平寺》が制作された。永平寺を現代音楽の観点から録音したレコード「The Way of Eiheiji」を若き日に知ったパイクは、長く永平寺への参禅を希望していた。仏像がTVモニターに映し出された自己像と対峙する構成は、パイクの代表作《TVブッダ》シリーズとしてよく知られるが、本作ではよりダイナミックな演出がなされる。低音のビートが強調された読経を背景音に、画面上の仏像は真っ赤な炎に包まれながら上下や前後に運動を繰り返す。

《メイド・イン・永平寺》1986年



《音と音との間No.1》1984年

福井市に生まれた山本圭吾は、「気」や「間」「ズレ」といった日本文化に固有のテーマを、ビデオテープ作品やビデオシステムを用いた観客参加型の作品をとおして探求してきた。本作は観客自身が参加する作品で、観客が下駄をはいて舞台上上がり、モニターに映し出される足の動きに合わせて動くゲームとなっている。しかし見本となる映像と観客の映像は、左右が逆になっていて、観客が悪戦苦闘するたびに、下駄がにぎやかな音を立て、周囲には他の観客が集まってくる。

山本圭吾

今、あなたに つたえたい ミリオンセラー ロングセラーの絵本たち

2022.9.30(金) - 11.6(日)

主催：福井県立美術館 協賛：株式会社ジャクエツ
後援：福井新聞社、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ、FM福井、福井ケーブルテレビ、
さかいケーブルテレビ、丹南ケーブルテレビ、月刊URALA

本展は日本国内で販売部数100万部を超えるミリオンセラーの絵本や、長く愛されているロングセラーの絵本、および世界の名作絵本をご紹介します。

「福井出身の絵本画家・作家たち」のコーナーでは、いわさきちひろ、かこさとし他、新進気鋭の絵本作家・刀根里衣を特集展示しました。なかでも人気だったのは、かこさとし『からすのパンやさん』の84種のパンとからすの親子のフィギュアや、株式会社ジャクエツの提供で設置したグッドデザイン賞受賞の遊具コーナーでした。

「絵本と読み聞かせのコーナー」では子ども向け、大人向け、

それぞれの琴線に触れるミリオンセラー・ロングセラーの絵本約200冊を福井市立図書館、福井県立図書館、越前市かこさとしふるさと絵本館「硯」所蔵から厳選して開架し、毎週末には絵本の読み聞かせ会や読み聞かせの講座などを開催、存分に絵本の世界に浸っていただきました。

平日は学校鑑賞会、土日は親子連れでにぎわい、会期中9,041人の方々にご来館いただきました。これもひとえに本展覧会実現のためにご配慮を賜りましたご所蔵者の皆様、イベントにご協力いただいた関係者の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。



1.からすのパンやさんフィギュアコーナー 2.売店特設コーナー 3.世界の名作絵本たち 4.刀根里衣コーナー 5.絵本と読み聞かせのコーナー

《関連イベント》

●親子鑑賞デー

会期中土曜日 9:00～11:00を
会話しながら鑑賞できる時間帯としました。

●たくさんの子どもたちを集めたときの 絵本の読み聞かせのコツ講座

[日 時] 10月1日(土) 10:00～11:00
[場 所] 1階講堂
[講 師] 田中智美氏

(福井県立図書館
子ども読書室室長)
[参加人数] 20人



●わが子への読み聞かせと美術館たんけん (新米パパママ応援講座)

[日 時] 10月15日(土) 9:30～11:00
[場 所] 1階講堂、展示室
[講 師] 田中智美氏(福井県立図書館 子ども読書室室長)、
佐々木美帆(福井県立美術館学芸員)

[運 営] (公財)ふくい女性財団
[参加人数] 16家族 52人



●絵本の読み聞かせ会

◎10月8日(土)、10月30日(日) 各日14:00～14:40

[講 師] 南場恭子氏
[演 奏] バロックノーツ

◎10月22日(土) 14:00～14:30

[講 師] 坪内啓子氏、松原和子氏

◎10月29日(土) 11:00～11:30

[講 師] 梅田悦世氏(日本朗読検定協会 読み聞かせ講師)

◎10月29日(土) 14:00～14:40

[講 師] 福井県立美術館ボランティアの会

[場 所] 第2展示室

[参加人数] 計 235人



●だれかに贈りたくなる仕掛けカードづくり

[日 時] 10月29日(土) 9:00～11:00

[場 所] 第4研修室

[講 師] 萬末来子氏(アーティスト)

[参加人数] 20人



●絵本マラソン

～各自のおすすめの絵本をリレーで語る60分～

[日 時] 10月16日(日) 18:00～19:00

[場 所] 美術館喫茶室ニホ

[司 会] 佐々木美帆(福井県立美術館学芸員)

[参加人数] 7人

●ナイトミュージアム 大人が楽しむ絵本の世界

[日 時] 10月9日(日) 17:30～19:30

[場 所] 講堂、展示室

[講 師] 谷出千代子氏
(児童文学研究者・越前市かこさとし
ふるさと絵本館「硯」元館長)

[参加人数] 40人



●福井絵本めぐりスタンプラリー

会期中購入した福井県立美術館の観覧券の半券、あるいは「ちひろの生まれた家」記念館の相互入館割引券の提示で、他館の観覧料を団体料金に割引。

[スタンプラリー期間]

福井県立美術館&越前市かこさとしふるさと絵本館「硯」9/30～11/6

「ちひろの生まれた家」記念館 9/17～11/28

[割引有効期限]

福井県立美術館 11/6、「ちひろの生まれた家」記念館 11/28まで

※他の割引・サービスとの併用不可 ※越前市かこさとしふるさと絵本館「硯」は入場無料

[会場] 当館、「ちひろの生まれた家」記念館、越前市かこさとしふるさと絵本館「硯」

[3館制覇人数] 220人

●福井絵本めぐり 3館をつなぐバスツアー

[日 時] 10月17日(月) 10:00～14:00

[行 程] 福井県立美術館発～かこさとしふるさと記念館～
ちひろの生まれた家記念館～武生中央公園(だるまちゃん広場
・たけふ菊人形)～福井県立美術館着、解散、各自自由観覧

[主 催] 京福バス株式会社

[参加人数] 21人



●すてきな遊具であそぼう

いずれもグッドデザイン賞受賞の遊具、深澤直人デザイン「BANRI」や、五十嵐久枝デザイン「ソフトドームS」を設置、たくさんのお子ど
もたちに遊んでもらいました。



みくに龍翔館 特別展示

みくに龍翔館の所蔵作12点のギャラリー展示を
しました。福井ゆかりの小野忠弘や、新道繁の芸術
院賞受賞作も併せてお楽しみいただきました。



[日 時] 10月12日(水)～11月6日(日)

[場 所] ギャラリー

[主 催] 福井県立美術館

[協 力] みくに龍翔館

おしゃべりな絵

同時開催

秋

～初秋から
晩秋まで～

2022.9.30(金) - 11.6(日) [主 催] 福井県立美術館

「おしゃべりな絵」では、所蔵作品から「耳をすますと思わず何か
が聞こえてきそうな絵」にスポットを当てました。

人々の姿や動物たち、また自然の景色のほかに、色や形で構成
された抽象画などを展示しました。絵画のなかで繰り広げられるそれぞ
れの場面から、人々の会話や街のざわめき、鳥の鳴き声や波の音など
様々な音が聞こえてきそうなおしゃべりな絵を紹介。漏れ出てくる「音」
を想像しながら、耳を傾けて作品を鑑賞いただく機会となりました。

また、「秋～初秋から晩秋まで～」を同時開催し、様々な秋の情景を
描いた所蔵作品を紹介しました。



《関連イベント》

●学芸員によるギャラリートーク

[日 時] 10月9日(日)、29日(土) 各日ともに14:00～

[場 所] 第4展示室

[参加人数] 27人

《イベント報告》

福井のアーティストを拓いた男 土岡秀太郎

2022 2023
12.9(金) 1.15(日)



つちおか ひでたろう
土岡 秀太郎
(1895~1979)

福井の現代アートの礎を築いた美術指導者、土岡秀太郎が大正11年に「北荘画会」を創立してから100年。これに合わせ、福井に遺された土岡旧蔵の作品、資料を展示し、その功績をあらためて広く紹介しました。

特に土岡が疎開させてまで守ったと伝わる、貴重な資料群は、デジタルスキャンを行い実物資料に並置した大型液晶テレビにより上映。白黒写真は一部AIアプリによるカラー化を試みました。デジタルイメージの併用により、土岡が現代に生き生きと蘇るような展示空間が出現した展覧会となりました。



大正から昭和時代の美術評論家、美術指導者。明治28年6月25日、福井県王子保村（現越前市）生まれ。武生中学卒。日本画家、土岡春郊の弟。筆名は究深。
大正11年、福井出身で未来派美術協会の中心人物であった画家、木下秀一郎らと福井市で「北荘画会」を結成し、前衛芸術運動を推進。木下が福井に滞在した2年の間には、『未来派とは？ 答へる』（木下秀一郎・ブルリュック共著、大正12年中央美術社刊）の編纂に同志とともに協力した。昭和5年、私財を投じ福井駅前3階建てのギャラリー「アルト会館」を建設。同会館はアルテコ様式をいち早く日本に導入したモダニズム建築として注目されるが、そのスタンドグラスや階段などの装飾デザインは、土岡自らが手がけた。アルト会館を会場に洋画講習会などを開くとともに、「第2回独立美術協会展」や「海外超現実主義作品展」といった大都市にしか巡回しない展覧会を福井に招聘した。終戦後の23年には「北美文化協会」を組織。阿部展也や岡本太郎を講演や講習会、展覧会に招き、中央の前衛の息吹を直に福井の地にもたらすことに努めた。54年

1月6日に83歳で死去するまで、約60年にわたり福井における前衛美術運動の発展と郷土文化の向上にその生涯を賭けた。運動を通じ、主に戦前期には堀田清治、名村定志、田中武、福岡繁樹、山岸与三治、未定豊、旭亮弘、藤沢典明、戦後には河合勇、榎尾正次、八田豊、山本圭吾、五十嵐彰雄、長谷光城、松宮喜代勝など数多くの芸術家を育てた。
古九谷の研究者としても名高く『定本古九谷図説』をあらわした。現代音楽にも造詣が深く貴重なSPレコードの収集家としても知られ、多くの音楽鑑賞会を開いた。
長男で美術評論家である土岡秀一氏が著した『奇跡の「地方前衛」 福井近代美術1920~1945』『異形の「戦後美術」 北美30年の軌跡 1948~1977』（福井新聞社刊）の両書には、秀太郎が遺した詳細な活動記録をもとに、運動の全貌が精緻に活写されている。

《関連イベント》

● **スペシャル対談**
土岡秀一氏（美術評論家）×野田訓生（福井県立美術館 副館長）
[日 時] 12月18日(日) 14:00~15:00
[場 所] 講堂
[参加人数] 40人



● **美術館喫茶室ニホ 学芸員トークサロン**
[日 時] 1月9日(月・祝) 17:00~18:00
[場 所] 美術館喫茶室ニホ
[参加人数] 8人



● **学芸員によるギャラリートーク**
「新春展 動物コレクション」との共同解説
[日 時] 1月8日(日) 14:00~
[場 所] 第4、3展示室
[参加人数] 30人



● **ナイトミュージアム**
「新春展 動物コレクション」との共同開催
[日 時] 1月14日(土) 17:30~19:00
[場 所] 第4、3展示室
[参加人数] 28人

《イベント報告》

新春展 動物コレクション

2023
1/3(火) 1/15(日)

本展覧会では、日本画、洋画、版画、工芸品など様々なジャンルから動物が描かれた所蔵作品を展示しました。その中でも印象深い作品を紹介します。

ジェラルム・デ・ヨーデの「パリスの審判」という版画作品はギリシャ神話にまつわるエピソードを描いています。中央に座る右の若者がパリス、そしてその隣と彼らを挟むように立っている3人の女性一左から「知恵と戦争」の女神ミネルヴァ、「美と愛欲」のヴィーナス、そして最後にゼウスの妻で「結婚と出産」を司るヘラーは、これからパリスによってある審判を受けます。その審判とは、3人の女神たちの中で、もっとも美しい女神を決める、というもの。その勝者は…ヴィーナスでした。パリスが黄金のりんごを差し出していますね。

さて、肝心の動物に注目してみましょう。ヘラの足元にいる孔雀が分かりますか？ 西洋美術では神話や宗教的な作品において、人物を

表すシンボルと一緒に描かれることがあります。これをアトリビュートといいます。これにより、絵の中の人物が誰なのか判別できるというわけです。ヘラは雄の孔雀をアトリビュートの一つとしています。

ギリシャ神話には他にも多くの動物が登場します。ぜひ、探してみてください。



ジェラルム・デ・ヨーデ「パリスの審判」16世紀後半

《イベント報告》

2023.1.20(金) 2.19(日)

風刺画家 オノレ・ドーミエ

Honoré Daumier

オノレ・ドーミエ（1808-1879）は、1808年にフランスのマルセイユで生まれました。詩作に生きようとして夢破れた父の代わりに家族を養うため、幼い頃にパリに移り住み、家計を助ける傍ら次第に絵画の道に入ってきます。やがて諷刺雑誌『カリカチュール』を主宰していたシャルル・フィリボンに見出され、その才能をリトグラフ（石版画）で開花させました。ジャーナリズムが興隆しはじめた近代都市の形成期に、洋梨姿の国王や戯画化された政治家の面々、あるいはパリの風俗や市井の人々の喜怒哀楽などを描き、諷刺画家として人気を博したのです。本展覧会では、所蔵作品から63点のリトグラフおよび彫刻を展示し、ドーミエの画業を辿りました。

また、「みんなの暮らし～人々の姿や風景から～」を同時開催し、人々の日常の暮らしを様々な表現した所蔵作品をご覧くださいました。

《関連イベント》

- **学芸員によるギャラリートーク**
[日時] 2月4日(土)、12日(日) 各日ともに14:00~
[場所] 第4展示室 [参加人数] 23人
- **消しゴムはんこを作ろう！**
[日時] 2月12日(日) 13:00~16:00
[場所] 1階ギャラリー [参加人数] 21人
- **美術館喫茶室ニホ学芸員トークサロン**
[日時] 2月12日(日) 17:00~18:00
[場所] 美術館喫茶室ニホ [参加人数] 8人
- **ぬりえコーナー ドーミエ、どーぬる？**
[日時] 会期中 随時開催（※2月2日～5日、12日を除く）
[場所] 1階ギャラリー [参加人数] 425人

令和5年度 福井県立美術館ボランティア 新規会員募集

福井県立美術館では来館者と美術館をつなげる役割を担っていただく「ウエルカムスタッフ班」を募集します。ご興味のある方はご応募いただきますようご案内します。

募集の内容	名 称	ウエルカムスタッフ班 ※土曜日、もしくは水曜午前に活動できる方	募集人数	若干名
	活動内容	1. 特別展の見どころや作品についての「ちょこっと案内」 2. 所蔵品によるテーマ展や特別展の見どころをSNSで発信 3. 学校等の団体鑑賞サポート 4. キッズミュージアムのサポート 5. 新聞班等のレファレンス管理の補助		

- 活動時の前提条件**
 - 福井県が国の緊急事態宣言の対象地域でないこと
 - 福井県から独自の緊急事態宣言が出されている場合、休業養成の内容を踏まえるとともに、美術館の意向を確認すること
- 募集条件**
 - 活動開始時18歳以上の県内在住者
 - 福井県立美術館ボランティアの活動方針に沿って、積極的に活動する意欲を持った方
 - テーマ展や特別展でのギャラリートークや見どころ解説会、その他フォローアップ研修に参加可能な方
※ギャラリートークや見どころ解説会、フォローアップ研修は主に土曜日に行います。
 - ボランティア相互連絡のために個人のメールアドレス、携帯電話番号を開示いただける方
 - 原則無償の活動となります。
 - 登録期間は令和6年3月31日までです。(美術館の承認により登録更新も可能です)

- 募集方法**
申込締切…令和5年6月30日（当日消印有効）
HPに掲載の申込書にご記入いただき、メールもしくは郵送でお送りください。追って説明会の日時をお知らせします。
※郵送の場合封筒に「ボランティア応募用紙在中」と朱書。
- 申込先**
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館ボランティア担当
TEL.0776-25-0452
FAX.0776-25-0459
Mail: finearts@pref.fukui.lg.jp
※応募書類はお返ししませんのでご了承ください。
※ご記入いただいた個人情報は募集に関する連絡以外には使用しません。

「今を生きる、時代を描く」

【会期】4月5日(水)～4月30日(日) 【休館日】月曜日

圧倒的な大画面の魅力で戦後の日本画壇に旋風を巻き起こした横山操(1920～1973)と、その盟友であり装飾性豊かな作品で昭和の琳派と呼ばれた加山又造(1927～2004)、2人の教え子であり、今を生きる時代を描き続ける福井出身の日本画家・米谷清和の3人の日本画家を特集します。



米谷清和《秋、日の無い日》1993年



米谷清和《エレベータ》1972年

「富田溪仙展 ～越前の紙漉きを描く～」

【会期】5月12日(金)～6月11日(日) 会期中無休

富田溪仙(1879～1936)は京都画壇出身で、再興日本美術院にも所属した異色の画家として知られています。早くから越前和紙の特性に着目し、東西の日本画壇に和紙の魅力を広めることに一石を投じました。

溪仙が越前の地を訪れた経験をもとに描いた《紙漉き》を中心に、画家と紙漉き職人との交流の軌跡を辿る本展では、近代日本画の視点から「描かれた越前の紙漉き」を読み解いていきます。古き良き伝統の中で紡がれる職人の技、そして豊かな自然に育まれた越前を独自の芸術観で捉え、理想郷として作品へと昇華させた溪仙の描く味わい深い世界をご堪能ください。



富田溪仙《紙漉き》1928(昭和3)年 東京国立近代美術館蔵



「イメージWORKS」展覧会 特別メニュー



「てんさい莓アイスと 白葡萄ジュレの work パフェ」

優しい甘さの甜菜糖を使用した自家製いちごアイスと、ワイン用の白ぶどうを絞ったジュースで作る香り高いジュレを組み合わせ、淡い春を感じるようなパフェに仕上げました。

美術館喫茶室 二ホ

【営業時間】9:00～19:00

【定休日】月曜日および美術館休館日

*Facebook、Instagramにてご案内

【電話番号】0776-43-0310

*フリーWi-Fi



Facebook



Instagram

お知らせ

令和5年度 福井県立美術館 実技講座受講生の募集

福井県立美術館では「日本画」「洋画」「素描(デッサン)・水彩画」の基礎講座(4～5月・10回)と、同内容の専門講座(5～10月・25回)の受講生を募集します。

※詳しくは美術館ホームページ、または館内設置の募集要項をご覧ください。

◎定員

- 日本画(基礎講座・専門講座)／定員各15名
- 洋画(基礎講座・専門講座)／定員各15名
- 素描(デッサン)・水彩画(基礎講座・専門講座)／定員各30名

◎募集期間

- 基礎講座 2月12日(日)～3月11日(出)まで
- 専門講座 3月19日(日)～4月15日(出)まで

◎2023年3月～4月の休館日について

館内メンテナンス、展示替え等のため下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承ください。

3月6日(月)、3月13日(月)、20日(月)、3月27日(月)～4月4日(火)、4月10日(月)、17日(月)、24日(月)



美術館のHPはこちら